

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第1学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文法(促音・拗音・長音・助詞「は」「を」「へ」の使い方など)の定着が不十分である。 ・話すこと、聞くことの基本が身につけていない。 ・ひとまとまりの語や文として音読できない児童が複数いる。 ・内容を聞き取る力に課題がある。 ・読書への興味については個人差が大きく、読むジャンルには偏りが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法の定着や字形を正しく捉えて書くことができるように、視写をする時間を十分に確保する。 ・相手を見て、うなずきながら、集中して聞くことができるように指導する。また話形を示したり、カードなどを活用したりして順序を考えて話すように指導する。 ・音読する際、どこを読んでいるのかわかるように指で文字を追わせるように継続して指導する。また発音(姿勢や口形、声の大きさや速さ)についても、継続的に指導する。 ・内容を正しく聞き取るために、聴写(連絡帳など)や友達の考えを聞き合うなどの話し合いの活動を取り入れていく。 ・読書に興味をもたせるために、いろいろなジャンルの本の読み聞かせをしたり、児童同士が好きな本を紹介し合う活動を設定したりする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作や手を使いながら計算している児童が多数いる。 ・数の順序や規則性の理解が不十分である。 ・10までの加減法の文章題で躓く児童が多い。(特に文章から立式する際に、加法と減法の区別をすることに課題がある。) ・文章題の回答に単位をつける習慣が身につけていない。 ・時刻の学習で、「〇時半」を表したり読み取ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分にブロック操作で計算の反復練習を行い、徐々に頭の中で考えられるようにしていく。 ・2とびや5とびなど何度も声に出して数えたり、数直線を活用したりすることで理解を深めていく。 ・文章題の意味理解を図るために、具体物や視覚的な教材を活用する。 ・言語活動を取り入れることで、自分の考えを整理し、理解を深めたり知識を定着させたりする。 ・日常生活の中で時計を読む機会を増やし、時刻を意識した生活をしていくと共に、家庭にも協力を仰いでいく。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の観察において、上手く文章や絵で表現することができない児童がいる。 ・地域や社会に直接かかわる体験が不足している。 ・みんなで使うものを大切に、安全に正しく使うなど公共の意識を育てたい。 ・活動を通して気付いたことを考えたり、互いの気付きを交流したりする活動が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や図工の指導との連携を図る。 ・関心をもったことについて、見る、聞く、触れる、探すなどして直接働きかける活動を設定する。 ・地域への親しみや愛着をもたせ、自分自身の生活を広げたり豊かにしたりするために、公共物や公共施設を積極的に利用する。その中で、ルールやマナーを身に付けさせ、公共の意識を高めていく。 ・身近な自然に触れたり、伝統行事や伝承遊びに関する活動を行った際には、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるように交流する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの奏法で躓く児童がいる。 ・リズムや音程などがそろわない児童がいる。 ・むやみに大きな声で歌ったり、自分勝手な速度で歌ったりすることがある。 ・鍵盤ハーモニカで、リズムに合わせてメロディを奏でることができ、正しい指使いで演奏することは苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの個別指導を重点的に行う。 ・音程感やフレーズ感、リズム感を育てるために、階名で模唱したり、暗唱したりする。リズム唱やリズム打ちなどに親しませる。 ・体の動きを伴った活動や互いに聴きあう活動などを取り入れながら、ていねいな歌い方、きれいな発声や発音で、声を合わせて歌うことを指導する。 ・様々な楽器を体験し、楽器の音色や強弱などを感じ取れるようにする。鍵盤ハーモニカを正しい指使いで演奏できるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのり、テープなど用具を器用に使いこなすことが苦手である。 ・自分の思いをうまく表現するのが苦手な児童がいる。 ・表したいことが見付けられない児童がいる。 ・一人一人の児童の発想が広がるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を使う活動を多く取り入れ、用具の基本的な使い方に慣れさせる。 ・友達作品を鑑賞する時間を積極的に設け、それぞれの作品の良さに気付かせていく。 ・自分の方法で、いろいろな表し方ができるようにする。 ・友達作品を見たり、感じたことを話したり聞いたりする活動を通して、表し方の違いや面白さに気付かせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力や忍耐力に課題がある。 ・技能の個人差が大きい。 ・きまりを守ってゲームを行うことが出来ないことがある。チームプレーは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体の動きを取り入れた活動をバランスよく行い、運動量を十分に確保し、体力を高める。 ・友達同士で教え合う活動や個別指導を取り入れていく。 ・運動に進んで取り組み、きまりを守り、仲よく練習や競争をする態度を育てていく。 	